

第50回飯山市駅伝大会を10月8日に開催

第50回飯山市駅伝大会を10月8日(日)に開催します。
 今大会は、台風災害やコロナ禍を経て5年ぶりに全面公道で実施します。コースは左図のとおり、秋津地区をスタートし、飯山、柳原、外様、太田、常盤の各地区を経て、長峰スポーツ公園多目的グラウンドをゴールとする12区間、全長24・4キロをタスキでつなぎます。コース設定にあたっては、近年各チームの課題となっている選手・役員



※距離の単位はキロメートル

令和7年度開校予定の城北小学校新校舎の建設スケジュールの変更について

飯山市教育委員会では、令和7年開校に向けて準備を進めている、城北中学校区の4小学校を統合した「城北小学校」の新校舎の建設スケジュールについて、当初の令和7年2月完成の予定から、完成時期を5か月間程度、遅らせることとさせていただきます。

これは、現在世界的に発生している資材不足や物価高騰、人手不足により、設計時に想定していた工事期間や、建設費では不足が生じ、6月に実施した建設工事の入札で「不落札」(市が提示した工事費の上限(予定価格)以下の金額で工事をできる事業者がいなかった)となったことにより、方針を再検討したものです。

検討により、校舎の完成時期を令和7年7月までとすること、また工期が長くなることなどに伴い、予定価格の増額を行ったうえで、改めて工



開校準備情報は飯山市ホームページをご覧ください

性的少数者の方がそのらしい人生を送ることを目指して 長野県パートナーシップ届出制度

長野県では、性的少数者(性的指向が異性に限らない方、性自認が生物学的な性と一致しない方など)の方々の日々の生きづらさを解消し、生活上の障壁を取り除くことを目的として「長野県パートナーシップ届出制度」を制定し、令和5年8月1日に施行しました。

「長野県パートナーシップ届出制度」は、双方、またはいずれか一方が性的少数者であるお二人が、互いを人生のパートナーとすることを県へ届け出て、県は届出を受領したことを証明する制度です。

制度の概要

双方、またはいずれか一方が性的少数者であるお二人が、お互いを人生のパートナーとすることを県へ届け出ることで、県から「届出受領証」が交付されます。(戸籍や住民票の記載は変更されません)

届出受領証とは

本人とパートナーの氏名が記載されており、希望される場合は、生計を一にする子の氏名も記載されます。

制度利用によりできる事は…

パートナーとともに各種行政・民間サービスを受けられる場面が増え、例えば、市

営住宅の入居申し込み、生命保険の受取人としての指定、住宅ローンの連帯債務など、これまでは家族でなければ認められなかったサービスや登録ができるようになります。

事業者の皆様へ

パートナーシップ関係を示す届出受領証等の提示を受けた方々へ、婚姻関係・事実婚姻係にある方々と同様のサービスを提供することについて、ご理解と協力をお願いします。

お問い合わせ

0671-0743 (課直通)



長野県パートナーシップ届出制度について詳しくは、県ホームページをご覧ください

ありがとう! セイジ先生

ALT(外国語指導助手)として、平成30年から5年半という長い期間、市内各小学校での英語の授業を担当していた、ライト セイジ マイケル先生が7月末で退任されました。

セイジ先生は、楽しくわかりやすい授業を小学校で行ったり、他のALTや国際交流員とともに市内各イベントで、出身のアメリカをはじめとした海外の文化を紹介するなど、明るく優しいキャラクターで多くの子どもたちに親しまれました。今後について「アメリカに帰っても、日本や飯山のことを紹介していきたい」と話されていました。

飯山市では、小中学校の児童生徒の皆さんに生きた英語を学んでいただくため、ALTを各小中学校に配置しています。



帰国後も飯山の事を忘れず、交流を続けていけたらと語るセイジ先生

人権学習 シリーズ

誰もが個人として尊重され、ひとり一人が機会を平等に与えられ、ゆたかに暮らす活気ある男女共同参画社会の実現は近づいているのでしょうか

飯山市男女共同参画推進委員長 滝澤 万利子

飯山市は2005年に、「第1次男女共同参画計画」を策定し、女性の地位と福祉の向上をはじめ、あらゆる分野で、男女が共同してまちづくりをすすめる男女共同参画社会の形成に取り組んでおり、2020年には「第4次男女共同参画計画」(5か年計画)を策定し、見直しを重ねながら継続して課題を解決してきました。計画では、たとえば市の審議会等委員の女性参画率や、地域自治組織の女性役員率などの目標値を定め、さらに市民意識調査結果などにより、計画の達成度を判断しています。

「日本の男女平等度は146か国中125位」であると、今年6月21日に世界経済フォーラムの評価が発表されたところです。新聞によると、政治・経済で男女共同参画に遅れがあり、また大学の就学率が男性の方が高いからとのこと。女性リーダーを育成し、政治

や経済の分野を変革し、企業や地域の意志決定の場に女性を増やす取り組みを進めたいとありました。

男女共同参画社会の実現には課題が多いですが、様々な分野の企画・決定の場に女性が増えていけば、社会を形成する意識が変わる、さらに女性の進出は進み、男女共同参画社会は当たり前になるでしょう。その頃には男女共同参画という言葉は死語になっているはず。目指すのは、誰もが個人として尊重される社会、男女だけではなく、差別のない社会です。

最後に、戦後78年の8月という機会なので一言申しあげます。戦争のない社会の実現を強く願います。かけがえのない人の命や尊厳、幸せな暮らし、これらをまるごと奪ってしまう戦争は最大の人権侵害です。みなさんと力を合わせてなくしたいと心から願います。